

第5回神戸市立工業高等専門学校の今後のあり方検討委員会

議事要旨

1 日時 令和3年8月3日（火）10:00～10:42

2 場所 教育委員会会議室
神戸ハーバーランドセンタービル ハーバーセンター4階

3 議題

- (1) 第4回会議の振り返り
- (2) 報告書（案）

4 委員の主な発言

報告書（案） について

神戸市立工業高等専門学校の今後のあり方検討委員会として作成し、神戸市教育委員会に提出することとなる報告書（案）について、協議を行った。

（主な意見等）

- 今後のあり方に対する提言の中で「指標の設定による認知度の向上」という表題は、「指標の設定」によって、PDCAサイクルをうまく回し、神戸高専がさらに魅力あるものになるという趣旨だと理解している。本文を読むと理解できるが、認知度の向上だけを目指していると誤解されるかもしれない。
- 報告書に関して、今までの検討委員会での議論が、網羅的に過不足なくまとまっている。「イノベティブなエンジニア育成の要請」という課題について、エンジニア一人のイノベーションの話ではなく、組織としてイノベーションを起こすために資するエンジニアの育成という観点が伝わればいい。革新的なエンジニアを育てるよりも、革新があるところで、エンジニアにもたせる役割や能力について議論してきたと考えている。
- 神戸高専は教育面、研究面において貴重な市民の財産であり、その財産を神戸市のために活用することが、市民に対する重要な責務であると感じた。今後、神戸高専と市の施策との連携、市政における位置づけを議論し、具体的な方策を考えていくこと、そのうえで市が必要な支援を行い、運営していくことが重要である。
- 神戸高専が大事な財産であることが今後も変わらないのであれば、市として優秀なエンジニアを育てるためにも老朽化している実験・研究設備に積極的に資金を充てるよう配慮すべきである。
- グローバル競争力は重要であり、技術力という意味でも、北米や中国の学生の成長が非常に目覚ましい中、この成長に対応していく教育が求められている。そのために、エンジニア関係の企業だけではなく、多様性を考慮して例えば金融業などの人材も一緒に入っていく形で神戸高専に対して協力してもらうことが望まれる。

- 社会的に神戸高専は非常に重要な役割を果たしてきたが、これからの時代を担う人材としては、課題解決型の人材育成により、グローバルな視点、データサイエンスやICTなどの先端技術、さらに多様性の観点から、求められる能力が必要である。カリキュラムの編成など、今ある高専を変革していくならば、いろいろなものを加えるよりも、スクラップアンドビルドの設計や移行期に調整するコーディネートといったリソースが必要である。
- うまくいっている組織は、現状を変えることに対して抵抗感があるが、検討委員会を契機に、神戸高専が自ら中長期的な課題の認識を公表するという姿勢について、今回の検討は非常に大きな一歩である。
- 神戸高専は、就職率が良く、うまくいっている組織であるが、これからの時代を考えて、自ら変わっていく姿勢を示していることは非常に大事である。今後、コロナウイルス感染症の影響でグローバル化が進み、リモートワークなどICTを利用が必須となるため、自身を律する力、学び続ける力をもった人材を輩出する必要がある。
- 現在、神戸、大阪、京都の3地域が連携し、スタートアップ・エコシステムコンソーシアムという活動が立ち上がっている。この機運の中で、現在のグローバル化に対応できるエンジニア人材育成を神戸高専が先端を走る形で実施できるよう期待している。
- 高専は、日本の教育機関には珍しく、知識よりもむしろ実践的な力をつけることを特色にしていたので、これから必要になる英語力を含めたグローバルな力、あるいはICTやプログラミングなどの実践的な力を身に付ける特色ある高等教育機関になってもらいたい。
- 今後、大きく社会構造や産業構造が変わっていく中で、高専が担ってきた教育機関のあり方は、ますます重要になっていく。IoTなど新しい技術が開発されていく中、ハードウェアはなくならないので、それらを支える電気、機械、設計などの基礎知識を身につける必要がある。今後も、引き続き大事な高等教育機関として、維持強化してもらいたいと考えている。
- 神戸市外大との統合について検討するよう提言し、その際の神戸高専側のメリットを議論した。神戸市外大にとっては、違う視点があると思うが、共通して抱えている課題もあり、両者ともどう変革していくかということに直面している。
- 神戸市外大は神戸高専と同様にさまざまな中期的課題を認識していると考え。それぞれのメリットを可能な限り残しながら新しい価値をつくっていくプロセスは、時間を要し、慎重にするべき部分があるので、ぜひやり方について工夫していただけたらと思う。
- 神戸市外大は日本の高等教育機関の中では、一つの実践的な力をつける特色があるが、神戸高専と連携することで、これから働く上で必須となるICTなどの先端技術を身に付けることができる。